

希少な水生生物 じっくりと観察

黒崎永田湿地公園

長崎市主催のトンボ・水辺の生き物鑑賞会が27日、同市永田町の黒崎永田湿地自然公園であり、親子連れら約20人が希少な水生生物を観察した。

同公園は面積約10畝で、旧外海町時代の2003年に整備された市内唯一の湿地公園。市自然環境調査委員の田中清さん(64)と深川元太郎さん(47)が講師となり、生き物を探した。深川さんがすくった網の

深川さん(左)の網にかり、手元をつるとすり抜けたウナギ

黒崎永田湿地自然公園



中にウナギを見つけると、参加者は大歓声。このほかコフキヒメイトトンボ、ムツボシツヤコツブゲンゴロウなどの絶滅危惧種を発見した。田中さんは参加者に「自然を大切にする気持ちで育ててほしい」と呼び掛けている。(犬塚泉)

(長崎新聞 2017.08.29付 14面より転載)